

「筑波らしさ」を振り返ってみて

鈴木商乃

スターツ株式会社 ピタットハウスプレミアム日本橋 マネージャー

1990年 筑波大学第一学群社会学類卒業

今まで決して多くなかったのだが、今回の原稿執筆をひきうけてから、何故か立て続けに筑波大学出身者に出会う機会が続いた。ひとつは、もともと知っていた筑波時代の友人が集まるもの、もうひとつは仕事上で知り合った人が偶然筑波大学出身だったというものだ。

いわゆる「学閥」とは縁の薄い組織で働いており、今まであまり「筑波大学出身」ということは意識していなかったが、卒業してからすでに13年半が経過している。しかも私自身は社会学類の13期生であるので、すでに自分の先輩の年代数と同じ世代の後輩がいることになる。これからは、社会学類そして筑波大学の初期の部類に位置付けられていくのかと思うと、何とも光栄のような複雑な気分でもある。よい機会なので自分にとっての筑波大とつくばについてちょっと振り返ってみることにした。

変わるもの、変わらないもの

卒業以来、実はつくばに足を運んだ回数は比較的多い方だと思う。その要因として、私が勤めている会社と、つくばで起業した不動産会社とが2001年夏に業務提携(フランチャイズ契約)を結び、私がスーパーバイザーとして定期的に訪問していたためだ。奇遇なものだと思いながら月1~2度の訪問を重ねていたが、あくまで仕事なのでさしたる感傷に浸ることもなく来筑していたのだが、ある時、時間があったので大学構内を訪ねてみたところ、これにはいささか自分の気分も揺り動かされるものがあった。一気に十数年前に戻ったような錯覚におちいったのだ。建物や並木が創り出すキャンパスの空間 - そこを行き交う人々はもちろん変わっているのだろうが、視覚と嗅覚をダイレクトに刺激されいくつもの出来事、いくつもの季節が一気に脳裏よみがえってくるようであった。「変わらな

い！」というのがまっさらな感想であった。

現在は部署の異動もありつくばへの定期訪問は私の任ではなくなってしまったが、次回来た折にはどんな感想をもつのだろうか。新鮮な気分を味わうためにも、しばらく時間をおいてみたい。

ところで、大学構内を歩いた時には全然変わっていないと感じた訳だが、一方でビジネスの場面で触れたつくばには随分と新しい発見もあった。

そのうちのひとつは、筑波大学生および大学関係者というのはつくばの構成員の一部にしかすぎないという点を実感した点だ。学生時代には筑波大生である自分たちこそがつくばの中心であるようにも感じてしまいがちであったが、提携不動産会社(竹園に所在)に顧客層をきくと、学生はごく少数であった。また、メインターゲットにもしていなかった。

平たくいえばその会社では、学生はマーケットとして旨みがそれほど多くはないという判断をしている訳だが、研究機関や企業の顧客、そしてもとの地元層がほとんどで、それほど多様な人々がつくばには住んでいるという事をあらためて認識した。

不動産屋的視点からみると、つくばはなかなか面白い街である。顧客となりうる住民の属性は特徴的である。また、人口の流動もあるので適度に街が活性化している。

「何もない」「陸の孤島」といわれていた時代から変貌をとげ、住宅地としても成熟をみせてきた。守谷市周辺などもそうだ。つくばエクスプレスの開通が目前となってきたが、特徴のある地域社会、街へと確実に育っていると感じる。そうした地域コミュニティに学生時代にもっと関わっておけば新しい視座も獲得できたのではと感じている。

ぜひ現役の学生の皆さんには、学生だけの交流で満足することなく、学内、地域内の社会人との関わりを積極的にもっていただきたいと思う。学生時代という極めて限られた時間を過ごし、また別の場所に移ってってしまう人々が大半な訳だが、他の都市とは一味ちがう、つくばらしさを十分に感じていていただきたい。

いい人ばかり！？

仲間内の一人の結婚披露宴で久方ぶりにあった友人は「世の中に出るといかに筑波の時の人たちって『いい人』だったかを実感するよね」と言っていた。その時は軽く聞き流していたものの、その後、偶然出会った筑波大出身の人々 当然学類や入学年次などはバラバラ は、確かにみな誠実そうな人ばかりである。

ビジネスの現場で出身大学をきくということはそれまであまりしてこなかったが、

最近ではあえて自分のプロフィールを公開する手法をとっている。相手から「筑波ですか」という反応が返ってくるが、好意的なものが多い。

私自身は卒業以来 13 年間同じ会社に勤めており、現在の仕事は都内での住宅を中心とする不動産の仲介・コンサルティングである。偶然出会った筑波大出身者とはお客様のこともあれば、情報交換をした近隣業界の人であったり、また当社の海外現地法人に入社したスタッフであったりだ。もちろん自分との共通項をみつけたために、親近感がわくという点はあるにせよ、おしなべて、きちんとしているという印象である。ビジネスの場面で出会うのであるから、きちんとしていない方がおかしいとはいうものの、これは誇れるべき点であろう。

入学と同時に多くの人が入居しすごす宿舍生活は、親元から離れた解放感で、はじめは毎日が修学旅行状態だったが、多くの友人たちと濃密な友情を深めていく格好の舞台だった。

また、筑波の特徴である学際的なカリキュラム体系は、自分の興味関心に従って知識を広めることができたのと同時に学類を超えた友人たちを作るのに一役買っており、こうしたベースが「筑波大出身」といった時の親近感を大きくしている。在学中は特別だと感じていなかった点だが、筑波の

特徴として就職活動の際などももっとアピールをしてもいいのではないだろうか。

在学中の同じ学類、同じサークルなどの仲間たちも様々な分野で活躍しているが、卒業後に会おう人々もまた実にバラエティに富んだ、かつ国際的なフィールドで、堅実に歩んでいる。同じ地を共有した人々のこうした活躍はうれしく、自分にとっての良い刺激である。

つくばの「いい人ネットワーク」を広げて、さらなる飛躍を自他ともに実現させていきたいものである。

すずき あきの)